

## 第654回番組審議会報告

2021年1月12日開催

### ■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 島田智委員  
太平信恵委員 津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員

### ■毎日放送出席者

三村社長、梅本専務、虫明常務、浜田取締役 高山取締役、磯澤取締役、  
藪内取締役、田淵事業局長、尾寄事業部長、白井制作技術局長、  
津田コンプライアンス室長、中西番組審議会事務局長

### ◆議事の概要

テレビ番組 「1万人の第九 つながろう、今」

(2020年12月19日(日) 16:00～16:54放送)

について意見交換した。

### 【番組概要】

「サントリー1万人の第九」の総監督・指揮を務める佐渡裕氏の『分断社会にあるからこそ「人と人がつながる大切さ」「苦難の先に歓喜が待つ」を謳う第九が必要』という熱い思いを柱に、37年の歴史の中でもっとも厳しく先行きが見通せぬ環境の中で着地点を求め続けたスタッフ一同の試行錯誤からコンサートまでを特番化した。

#### SCENE① “第1幕” 消えた歌声

過去の公演とその時代性をダイジェストで見せつつ、第九の歌詞を強調。ステージを奪われた音楽家～佐渡による「1万人の第九は実現したい」。

#### SCENE② “第2幕” どんな音楽的犠牲を払ってでも

「リモートレッスン」～「歌声投稿による合唱」という新たな試みを模索。一方でホールへ安全に入場できる合唱団数を測る検証を医学博士と実施。10月26日「合唱団1000人」を募集開始した直後「第3波」に飲まれる。

#### SCENE③ “第3幕” コンサート直前の格闘

本番直前2週間前から投稿数は急伸び、裏方の編集は佳境を迎える。佐渡は慣れないスタイルでの指揮に戸惑いながらも音楽的仕

上げに入る。

SCENE④ “第4幕” コンサート本番

無人の大阪城ホールで海外からを含む観客 2000 人がビジョンで見守る中、「つながること」をテーマにコンサートは展開していく。クライマックスは1万 1961 人による「合唱」と生演奏のコラボレーション。

【各委員の主な意見は次の通り】

- \* これまでの番組はタレントさんを起用していたので実際に見たコンサートの印象とテレビ番組のギャップがあるなど思っていたが今回は主役は佐渡裕さんですごく感動した。
- \* 佐渡裕さんを芯に据えてつながることが大事なんだという言葉を含みながら、このイベントの牽引者、リーダーとしてのすごい存在感を感じた。縦軸に佐渡さんの情熱がずっとよく表れた番組だった。
- \* リモート通信が多くの人の生活スタイルにもう定着していつているんだなど改めて実感した。1万人をほぼ全員画面に映すというような番組の構成を考えたプロの技術と努力に感動した。
- \* 音楽があらゆる人に開かれていると感じさせるような内容だった。それを実現させた技術者の人たちにはすごく敬意を感じ、音声編集担当さんの話とかものすごくあがいている感じがして興味深かったので、もう少しこの部分を出してくれてもよかったんじゃないかなと思う。
- \* 1時間にちょっと詰め込み過ぎじゃないかなと思った。技術サイドにとっては、恐らくとてつもないむちゃ振りだったと思うが、そのあたりの苦労をもうちょっと見たかった。
- \* 「歓び、おまえの不思議な力は」とか文字が1行ずつ出たは消え、次の1行が出たがつながりがわかりにくいので積み重ねてほしかった。
- \* 今までには閉じられていて逆に入りにくかったが今回の映像はみんな普通なんだということがすごくわかった。インターネットでやらざるを得ない状況でできたいい実験だった。

\* 「1万人の第九」がコロナ以前に戻れば本当にそれでいいのか考えた。ウィズ・コロナの時代がこれからも続く中で、新しいテレビの文化を作っていくスタートとしてこの経験をどう生かすのかを考えていくべきだと思った。

**【番組制作者側の説明、質問への回答】**

\* 「1万人の第九」に関しては、タレントに頼らなくても素敵なところがたくさんある。まず1万人のひとりひとり、ちゃんとその人たちが主役になり得ることをやろうと心がけた。

\* 技術的側面をもう少し描けばということに関しては会社員、自営業、学校などいろいろご苦勞をされていることがたくさんある中で身内の苦勞をどこまで出すのかというところの迷いがあった。

以 上